

第4回 第6次豊橋市総合計画策定市民会議 議事要旨

日時：令和2年2月27日(木)10:00～12:00

場所：豊橋市役所 災害対策本部室

1. 「誰もが活躍する社会づくり」に関する意見

資料1を踏まえ、各委員の所属団体での活動経験や日常生活で感じたことを基に、豊橋の「誰もが活躍する社会基盤づくり」に関して各委員より発言

○委員

- ・ 前回の総合計画の中身について、すごくいいことがたくさん書いてあったが、計画は立てたら完成ではなくて、そこからどう取り組んでいくのか、市役所の職員が市民をどう巻き込んで達成していくのかが重要と思う。
- ・ 自分も豊橋市民ながら、総合計画があること自体を知らなかった。計画に基づいてこういうことを取組んでいますとか、市民に向けて一緒にやろうとか、そういった問いかけをしてもらって、市民皆が実現に向けて進んでいけるような計画になったらうれしいと思う。

○委員

- ・ 年齢や性別、職業の有無等により、就職ができなくなるということが、現状あると思う。国からの援助、制度を活用して、企業の職場環境の改善に取り組み、受け入れしやすい状況を作るとともに、中小企業などに制度の周知が必要と考える。
- ・ 国の制度、市の制度の概要と連絡先・問合せ先を記載したリスト表を作ってください、企業に配布することも一つの手ではないかと思う。

○委員

- ・ 「誰もが活躍する社会づくり」の理想像について、高齢者、障害者、外国人など、多様な人材がいらっしゃるので、それに見合った多様な働き方が必要になってくると思う。一般労働者の私たちも含めて、その方たちが、そこに必要とされているという自覚を持っていただけるような環境が必要ではないかと思う。
- ・ 働き方として、高齢者や障害者の方が自ら働きたいと思っていただけるような環境があれば、それが理想像だと思う。お互いさまの精神で、互いに共感して、協力しあうことが大事ではないかと思う。
- ・ 世間一般でいうと、優先席に平気で座ったりとか、身障者用の駐車場に平気で停めたりする方がまだまだいると思う。そういうのはよくないという意識を、市民全員が持つてば、いい市になっていくのではないかと考える。

○委員

- ・ 今現在、外国人にとって、日本語を勉強する受け皿が少ないと思う。活躍する時には日本語能力がないと何もできなくて、良い仕事にも結びつかないが現状である。きちんとした授業でなくても、日本語サークルのような形で、そこへ行くと、日本語の先生がいたり、外国人も来て、高齢者の方、身体が不自由な方でもウェルカムなので、一緒に日本語を学んだり、同時に日本の文化も学べるといいと思う。
- ・ 車いすで生活している方に話を聞くと、歩けるのに、堂々と車いす専用の場所に車を停めて、困ったことがあると聞く。海外では、駐車場利用の違反をするとペナルティがある国もある。日本もそのようなルールに変えていくと、減っていくのではないかと思う。
- ・ LGBT に関する意見としては、東京都や茨木県で始まった、パートナーシップ宣誓制度という、結婚に近いものがある、部屋を借りたり、手術の承諾ができたりするので、豊橋でも実現できると良いと思う。

○委員

- ・ 活躍するためには、この街に住みたいと思うこと、今住んでいる人が、これからも住みたいということが一番中心に来ないといけないと思う。用意していただいたデータを見ながら考えると、女子大学生が卒業後、豊橋で仕事をしたいかという、したくても、職場が少なく選べないということで、名古屋や浜松、また、東京、関西等へ行ってしまふことがあるので、この課題についてどう取り組んでいくのかが気になっている。女子学生だけではなく、豊橋には3つも大学があるので、若者たちが豊橋に住み続けるという視点で、物事を考えないといけないと思う。
- ・ 将来のことを考えるのであれば、子どもたちもこの街が大好きだという教育を考えて、小さいころから社会への参加をさせるような教育、社会経験をさせるという教育を、総合計画の中で取り組む必要があると思う。
- ・ 海外を見ても、元気な社会というのは、女性の方が活躍していたら社会全体がうまくまとまり、明るい印象を受ける。30～50代の女性の方たちを中心としたネットワークをもっと濃密にすれば、活躍できる社会づくりができるのではないかと思う。

○委員

- ・ 地域づくりの基本となっている自治会の行事は、市民であれば、誰でも参加できるような体制づくりが必要だと思う。
- ・ 市内5箇所に総合型クラブがあり、非常にリーズナブルで誰もが参加できて、自らの時間を描きながら、ライフスタイルにあった活動ができ、どんな年齢層にも対応でき、気軽に利用できる施設だと思う。もちろん、外国籍の市民の方も利用できる場であると思う。

- ・ 総合型クラブの運営基盤は、会員の年会費で賄っている。今後、クラブを維持していくためには、経営として苦しい状態に陥る可能性があるため、行政からの援助も考えていただけたらと思う。

○委員

- ・ 「活躍する」ということがどういうことなのかを議論した方がよいのではないかと思う。
- ・ 資料見て感じるのは、税金を使うことが多いということ。市としてこれからどうするかを考えたときに、税収を増やすような方策が必要かなと思う。そういうところに、活躍する人たちを集めて、場を作って、事業所として収入を増やすようなサポートをすることが必要ではないか考える。

○委員

- ・ 活躍とは何だろうと考えたとき、1人1人が社会や誰かに必要とされるのが第一で、その持てる力を最大限に発揮できる場を作っていくことが活躍するということなのかなと思った。
- ・ 核家族化や個人主義が進む中で、地域全体が、一つのファミリーのような社会、市になっていくといいと思う。障害者、高齢者、外国人、子供等、お互いを理解する機会や場を作る出すことができるが一番いいと思う。
- ・ 初対面で外国人の人と会ってコミュニケーションに困ったり、障害者を手伝ってあげた方がいいのかしない方がいいのか迷ってしまったりすることがあるが、幼少期から多様な人と普通に触れ合う場を持つことができれば、そういった恐怖心やどうしたらいいか困ることが少なくなると思う。例えば、デイサービスの施設に小学生が訪問して手伝ったり、保育施設や障害者施設に地域のお年寄りがいて一緒に遊んでいるような風景が普通になると素敵だと思った。

○委員

- ・ 市営住宅に外国人居住者が多く、コミュニケーションが取れていないことから、団地の自治会さんが非常に苦労している。また、5階に住んでいるお年寄りなどは、外出せず引きこもりになってしまい、組長さんも見回りが大変だという話をよく聞きく。市営住宅を更新する際は、早く建て替えをして3階ぐらいにする等、考えていただけるとありがたい。
- ・ 高齢者の安全移動手段ということでいうと、郊外にある団地の免許の返納率を調べたら、5~6%もいないという話を聞いた。なぜ、返納しないのかを聞くと、やはり移動手段がなくて、循環バスも1時間に1本しかなく、バス停までに距離があるという話を聞く。現在は、結構、移動型のスーパーマーケットに来ていただけていて、色々な地区を回っていると思う。特に、高齢者のところには、定期的に来て、声をかけていただいているのでありがたいとは思っている。

○委員

- ・ 岐阜県に、SDGs の 17 の目標のうち、6 つを掲げながら取り組んでいる会社がある。最初、会社を訪問したときに対応してくれた女性が、赤ちゃんを抱えながら対応してくれたのが衝撃的だった。岐阜も、豊橋と一緒に、外国籍の方が多いと聞く。外国籍の方が、一番問題にしているのは、定住できない、住まいを確保できないということなので、会社がマイホームを購入できるような補助したり、女性が活躍できるような会社づくりに取り組んでいた。豊橋市も、SDGs の 6 番「安全な水とトイレを世界中に」と 15 番「陸の豊かさを守ろう」というところに取り組んでいると思うが、今説明を聞いた、「本市の主な取り組み」というところも、SDGs の中に当てはめると、もっと目標数が上がってくると思う。
- ・ 取り組み自体は素晴らしいことをやっていると思うが、これを市民の方、企業の方を巻き込んで、共感してもらわないと、市の取り組みが世間に広がっていかないと思う。市として、これだけ素晴らしい取り組みをしているのであれば、キャッチーでカラフルで目立つ SDGs をツールとして使って、上手く発信して、共感してもらうところにもう少し重点を置いてやってもらおうと、今の取り組みがもっと浸透していくのではないかと思う。

○委員

- ・ 理想像は、きれいな言葉で言うと、“みんなが平等で過ごせる市 豊橋”が一番いいなと思う。高齢化になっていくことを真摯に受け止めて、高齢者が 1 人でも生活できるような社会、バスの本数が増やせないのであればバス停の増加した週 1 での訪問、デイサービスに無料でいけるなどの支援ができればよいと思った。
- ・ 働く女性に関しては、職場での実力を認めていただき、給料や有休を増やす等、どこかで評価をしてあげることが大切であると思う。
- ・ 障害者の仕事について、本当にどこまで需要があるのか。今後、IT 化が進んでしまうと、働きたい、外に出たいということが出来るのか、心配している。障害者を見て、「えっ」と思うのか、ウェルカムで受け入れてもらえるのかどうか。自分の職場には、車いすで来てくれるお客さんがいて、車がつくと、車いすのところに停まるので、椅子を引いて、扉を開けてご案内をしている。その方が、「ありがとう、ここはそういう風にやってくれるから、僕はゆったりと食べに来やすい、邪見にしないでね、社会の目は冷たいから」というようなことを帰り際におっしゃったことがあったので、やはりそれが現実なのかと感じた。
- ・ もう少し、健常者と障害者がコミュニケーションを取っていけるとよいと思う。来年の 4 月から、中学生の女の子がズボンを着用できるようになった。名目としては、小学生までは動きやすい恰好で通学していたので、いきなりスカートも…みたいなことでお手紙が来ていたのですが、それも差別をしない、一つのきっかけとして、教育委員会が取り組んでいてくれるのかなと考えた。

- ・ 高齢者や障害者への就労支援について、本人に情報を届けるだけでなく、親にも情報を届けるとよいと思う。

○委員

- ・ 今の子は、小さい頃から、みんな違ってみんないいと思っているので、人と違っていいのだということを、もっと認めあっていける社会になっていくとよいと思う。
- ・ 高齢者が今後増えていくということで、例えば彼らが小学校等で、コマ回やお手玉づくりなどの昔の遊びを教えるなど、人の持つ個性や得意なことが活かせるような、そんな社会になるといいと思う。昔の遊びは、自分で工夫したり、考えたりする遊びが多いのに対し、今の遊びはそれだけで終わってしまい、人との関わりがもてないので、自分でチャレンジすることによって工夫する力も育つと思う。
- ・ 昔とった杵柄ではないが、持っている技術や、特技が拡がっていく場所があると、高齢者も活躍できる場所ができ、子供たちのためにもなると思う。
- ・ 女性が働くためには、旦那さんがある程度家事の協力をしないと、女性の働きやすさにはつながらないと思う。今後、子育てしながら、家事をしながら働くのであれば、産まぬ選択（子供1人で十分）につながってしまうので、男性の家事の協力について、ワンポイントアドバイスのようなことができるとよいと思う。
- ・ 障害者については、個人情報の観点もあるが、法人では法廷雇用率という何名以上の事業所では何名雇用するという決まりがある。今年、自分の法人の中でも障害者雇用を始めた。採用した方は草刈りが大好きな方で、すごくきれいに草を取ってくださったり、お花の世話をしたり、お掃除をしたりしていただいている、とても助かっている。
- ・ 様々な障害をお持ちの方がいらっしゃると思うが、好きなこと、得意なことがあると思うので、そこが雇用する側と上手くマッチングすれば、こちらも助かる部分があるし、障害者の方も人の役に立つ喜びを感じながら働くことができ、お給料がもらえて幸福感を感じることもつながると思う。
- ・ 外国籍の方について、言葉の壁がすごく大きくて、言葉が通じ合わないことで思い違いが生じることもある。今は翻訳アプリを使いながらコミュニケーションをとっていますが、誤解や思い違いになってしまうこともあるので、言葉の習得ができる場所があるといいと思う。

○委員

- ・ 豊橋はなんとなく地域性もあるのか、どちらかというと、昔風の考え方をされる方が多いと思う。障害の有無、年齢、国籍などにより、自分自身もちょっと一歩引いたものの考え方をされる方もあるのではないかと思う。何かしようと思った時に、こんなことはできないだろうとか、聞いてもらえないだろうとか、無理ではないかといった、消極的な考え方があって、一歩前に進んだ考え方ができないように感じる。

- ・ 活躍できる場所がある方は幸せだと思うので、そういった場がない方への支援がとても大事になってくると思う。特に、高齢者、障害者にとっては、移動手段が大きな問題となっていて、活躍できる場間での移動手段や、場所が問題になってくると思う。現状と課題というところで、高齢化の問題が出ていたが、確かに高齢化が進んでいる一方で、核家族も進んでいると思う。
- ・ 意識をもって生活されている方は、おそらく孤立はされないだろうと思っているが、生活面、収入面で不安定な方については、地域社会から、段々遠のいていってしまって、孤立をしていくかなと思うので、社会に復帰できるよう、地域ぐるみで少しずつ、社会に付き合っていていただくような支援をしていくことが大切だと考える。
- ・ 昔は、結婚するまでとか、結婚適齢期になったら、子供ができるまでなど、ある一定の期間を決めて働いていた方が多かったと思う。働く女性の増加については、今は様々な面で働く女性のサポートもあるので、長い目で自分を求めてもらえる価値観、労働に値する収入もすごく魅力的で、仕事を続けておられる方も多いのではないかなと思う。職や家庭において、男性が優遇という話があったが。女だからこれをやらなくてとはとか、主婦だからここまでとか、そういったものが、まだまだ自分の中にもあり、配偶者に手伝ってもらいたいことなどもなかなか口にできず、女に生まれたから仕方がないなとしたりしている。
- ・ 障害者手帳の増加について、障害者のいらっしゃる世帯は、そのことを周りに知られたくないという世帯が多いと思う。手帳を持っている方の 1.5 倍から 2 倍ぐらいは、障害者の方が市内にいらっしゃるのではないかなと思う。手帳の申請をすると、うちに障害者があることが分かってしまうという面で、実際に申請すれば手帳をいただけるような方でも、しないかたがいらっしゃるのではないかなと思っている。障害の程度にもよるが、働く意欲があったとしても、受け入れ先が少ないと思う。
- ・ 外国人の市民について、資料の中に、ずっと日本に住み続ける予定と回答された方が、約 50%とある。ずっと豊橋に住み続ける予定の方が増えるといいなと思うので、補助金等を出していただきずっと豊橋に住みたいと思えるように、変わっていくといいと思う。
- ・ 非正規雇用の増加については、企業側の経営体制もあると思う。会社経営されている方は、利益がないとやる意味がないので、人件費を抑え、AI やロボットに変えていったときに、働く側にマイナスになるような結果が出てきたのかなと思います。
- ・ 誰もが活躍する社会づくりに向けた“今後の方針と具体的方策”については、とても重要で大切なことが掲げられてるので、これが全てクリアできれば、とてもいいと思う。

○委員

- ・ 所属組織の中で 20 代後半から 30 代半ばぐらいまでの人たちと話をしてきた。活躍といっても、どう活躍すればいいのかわからないのが、その世代の人たちの現状だと思う。自営業の方に話を聞くと、開業するにあたり、税金を取られたり、色々大変な面があるので、他の市町に比べて、開業するには難しいというか、やりにくいのではないかと、開業するにあたって、もう少しやりやすい環境を応援してくれれば、もう少し若い人が伸びて、独立してやっていけるようにすればいいのではという意見が出た。
- ・ 今後の方針と具体的方策ということでは、今の若い人たちは、活躍すること自体をあまり望んでおらず、現状でやっていければよくて、そんなに上を目指していないという印象を受けた。

○委員

- ・ 誰もが活躍する社会づくりとはということで、非常に難しいテーマだと思う。自分も、活躍とは何なのかという話が良くわからなかった。辞書で調べてみると、目覚ましい活動をするとか、素晴らしい活動をしていくのが活躍だと書いてあり、誰もが活躍する社会づくりと書いてあるので、市としては活躍できていない人がいるという認識なのだろうなと感じた。
- ・ 果たして、活躍できていない人が誰なのだろうということで資料に目を通すと、高齢者だったり、女性だったり、LGBT であったりということが書いてあるが、自分自身のことは書いていない。自分が活躍できているのか、と考えると、もしかすると、出来てないかもしれないと考え、活躍とは何か、というところで止まってしまった。
- ・ 理想像について、誰もが活躍できる、する社会づくりというのは、多様性を理解している人々が多く集う街が住みやすいまちなのかなと、定義づけをさせていただいた。多様性の中に、高齢者がいたり女性がいたり、LGBT がいたり、年齢の差があったりと思うが、まずはそういった人たちを知ることが、一番重要なのかなと思う。多様性の理解をどう浸透させていくのか、それができれば、自然にハード面（バリアフリーなど）がおのずと気づきがあるので、改善していくのではないかと考えている。
- ・ 理想像について、どのように現状と課題から理解するのかを考えると、多様性を受け入れられない人が多いからこそ、今、こういった資料になってくるのかと思う。具体策としては、やはり学校教育の中で多様性を学ぶ機会を多くしていく必要があると思う。教育という部分から行動していくことが必要で、学校教育や、我々大人世代になった人間の交流の増加（知る機会を含めて）という部分もソフト面として持ってくるといいのかなと考えている。
- ・ 女性の就労機会の提供という部分では、テレワークの導入には賛成で、非常にいいことだと思う。テレワークのやり方や補助については、企業導入も含めて、市から何か動きあるといいと思います。今は PC さえあれば、全員の顔を見ることができ、会議ができる環境が瞬時に整うので、PC やスマホさえあれば会議ができる。会議資料を変更した

ら、画面に出たりするので、それも重要なのではと思う。こういった新型コロナウイルスの環境下においても、そういったものを使うことによって、リスクも軽減でき、子供がいたとしても、家の中で仕事ができる環境が整うということもあると思うので、そういったことこそが、女性が活躍できる、いきいきと仕事ができる環境づくりにつながるのではないかと思う。

○委員

- ・ 理想とする社会の様子は、共生社会とか多文化とか、多世代の中で、地域で色んな方を受け入れられる多文化・多世代の地域ができるといいと思う。市民協働推進課や生涯学習課等でそのような事業があると思うが、予算も別々になっているので、なかなか進まない、そのあたりについては、市でまとめて考えていただくようにできると、解決に近づくのではないかと思う。
- ・ まちづくりを外国人に関して進めているところで、住民のうちで進めていくのには、言葉の壁がある。活動をするのに、学校の子どもたちを引き入れると、父母も一緒に地域に出てくるので、少しでも、外国人との共生社会をやっているという話も聞いている。
- ・ 高齢者の安全な移動手段の確保ということで、免許返納の人に関しては、市の取り組みでサポートしているが、それが、1年限定の支援になっている。もっと安心して移動できる手段を仕組みとして考えていく必要がある。

○委員

- ・ 皆さん発言される中で、障害者に対してなかなか声がかけれないという話もあったのですが、どちらかという自分たちの心の中に障害があって、声がかけれないという状況なのかな？と思う。自分も最初は、周りに障害者の方がいないため、よくわからなかったが、ちょっとしたことでハードルが越えられて、今では、毎回来られるお客さんと仲良くさせていただいている。ハードルが高いとは思わずに、お手伝いをすると、自分の心も変わるのではと思う。
- ・ 一緒にいると同じ人間で、障害者とか、外国人と括りがあること自体が苦手を感じる。多様性と言われているが、ユニーク（個性）なのかなと思う。何かで括るのではなく、それぞれの個性を認めて、ハードルが高いと遠慮せずに、自分から進んでそのハードルを越えられたら、そういう小さなことでも「活躍」だと思う。そういったことから出来たらよいと思う。

○委員

- ・ 障害者雇用について、例えば保育園だと、去年から、今まで障害児保育と言われていた言葉が、特別支援保育ということに変わった。障害者雇用というのもいつか変わらないかなと思っている。

○委員

- ・ 皆さん意見を踏まえて、今回の資料を改めて見ると、活躍する対象が限定されている印象を確かに受ける。多様性という言葉で括られていると思うが、ここに書いてある以外の方たちも社会にいて、そういう意見がたくさん出ていたと思う。また、社会の中で役割を持ち、そこで喜びを得ながら、生活ができるような社会を作っていかななくてはならないと思う。活躍の基礎となるのは、言葉や、それぞれの立場にあった必要なスキル、移動手段であり、それらを一人ひとりが身に着けていくことを支えていくことが大切だと思う。事務局は、こういった皆さんの意見を受け止めて、さらに議論してほしいと改めて思う。

○委員

- ・ 高齢者、障害者、外国人、LGBT 等が資料にあるが、その人たちに関するアンケートのようなものはあるのか。彼らに、活躍できていますかと聞いたら、意外と出来ていますという結果が出てきたときに、この会議に何の意味があるのかという話になるかもしれないし、統計として面白いとも思う。

<欠席者意見>

○委員

- ・ 「誰もが活躍する社会づくり」は誰が求めているのか。それが市民の幸福感になるのか疑問に思う。一人一人がその人に合った生き方ができることが幸福感になると思う。10年後、20年後を考えるのなら、今、本来の力が発揮できていない子供たちの環境を何とかしたい。周りの大人が関わり方を少し変えるだけで、子どもたちは生きる力を発揮する。何をするにもニーズアセスメントがなければうまくいかない。まずは、多くの人（子供も含めて）の声を聴くことが大切だと考える。

○委員

- ・ 自分が考える理想像は「様々な国籍の人が心地よく共存でき、高齢者・障害者にも快適なまち」である。子供から高齢者まで幅広い世代の人々が同じ場所で助け合いながら共同で生活できる新しいライフスタイル、「多世代の家」「コレクティブハウス」がヨーロッパで広がっており、豊橋でも実現できたらと思う。
- ・ 外国人への配慮について、市役所、税務署、病院などで、すべて日本語表記の書類を読み、記入することは不可能である。英語をはじめ、外国語での記載が必要だと考える。

○委員

- ・ 地域社会を構成するすべての人々を大切に思う「尊重」を基盤として、活躍を応援する思いに満ちた社会を実現したいと考えている。前回テーマのデータでも示されていたように、晩婚化・未婚化が進んでおり、単身で高齢者を支える人が増えてくるものと思

う。生活が困窮状態に陥り、言葉は悪いが、共倒れになるケースも少なくないと思う。複合的課題に個人や家族が見舞われた場合、単一の施策では対応できない可能性も高く、総合的な支援・サポートが望まれてくると考える。

- ・ 方針と具体的な方策について、「活躍の場と役割の確保・創出」において、企業の就労環境整備への支援、あるいは就労希望者と企業のマッチングについて施策化が必要と考える。